

平成30年

# 消 防 統 計

乙訓消防組合消防本部

## 平成30年消防統計目次

消防統計の概要	．．．	1～5
1 火災統計		
(1) 火災概要	．．．．．	6
(2) 市町別概要	．．．．．	7
(3) 出火原因別の火災件数と損害額	．．．．．	8
(4) 月別状況	．．．．．	9
(5) 火災種別損害額	．．．．．	9
(6) 覚知方法別件数	．．．．．	9
(7) 時間帯別件数	．．．．．	10
(8) 曜日別件数	．．．．．	10
2 その他災害統計		
(1) その他災害種別の件数	．．．．．	11
(2) 市町別その他災害種別の件数	．．．．．	11
(3) 覚知方法別件数	．．．．．	12
(4) 時間帯別件数	．．．．．	12
(5) 曜日別件数	．．．．．	13
3 救助統計		
(1) 事故種別出場件数及び活動件数	．．．．．	14
(2) 市町別出場件数	．．．．．	15
(3) 事故種別救出人員	．．．．．	16
(4) 発生場所別出場件数及び活動件数	．．．．．	17
4 救急統計		
(1) 事故種別出場件数及び搬送人員	．．．．．	18
(2) 年齢区分別事故種別搬送人員	．．．．．	19
(3) 事故種別傷病程度別搬送人員	．．．．．	19
(4) 年齢区分別傷病程度別搬送人員	．．．．．	20
(5) 傷病程度別搬送人員	．．．．．	20
(6) 市町別出場件数	．．．．．	21
(7) 消防署別出場件数	．．．．．	22
(8) 救急隊員が行った応急処置状況	．．．．．	23

## 消防統計の概要

### 1 火災統計

#### (1) 出火状況

ア 平成30年の出火件数は30件で、前年の22件と比べて8件の増加となっている。また、火災による死者は1名となっている。

火災種別では、「建物火災」が18件で前年に比べ2件の増加、「林野火災」は0件で同件数、「車両火災」は6件で4件の増加、「その他火災」は6件で2件の増加となっている。

〔1(1)火災概要〕

イ 市町別発生件数では、出火件数30件中、「向日市」が12件、「長岡京市」が14件、「大山崎町」が4件となっている。

〔1(2)市町別概要〕

ウ 月別の出火状況は、「8月」が7件で23.3%と最も多く、次いで「2月」、「6月」及び「7月」が各4件で13.3%、「12月」が3件で10.0%、「1月」、「4月」及び「11月」が2件で6.7%、「9月」、「10月」が各1件で3.3%の順となっている。

また、月別の損害額については、4月の8,576千円が最も多くなっている。

〔1(4)月別状況〕

エ 時間帯別件数は、「14時～16時」が7件で最も多く、次いで「10時～12時」が5件、「16時～18時」が4件、「6時～8時」、「8時～10時」、「12時～14時」、「18時～20時」、「22時～24時」及び「不明」が各2件、「0時～2時」、「20時～22時」が各1件となっている。

〔1(7)時間帯別件数〕

オ 曜日別件数は、「月曜日」が8件と最も多く、「火曜日」が5件、「木曜日」「金曜日」が各4件、「日曜日」、「水曜日」が各3件、「土曜日」が2件、「不明」が1件となっている。

〔1(8)曜日別件数〕

#### (2) 出火原因

出火件数30件中、「たばこ」、「放火」が各4件と最も多く、「電気機器」が3件、「こんろ」、「電気装置」、「電灯・電話等の配線」、「マッチ・ライター」及び「不明」が各2件、「火遊び」、「炉」、「ストーブ」、「配線器具」、「灯火」及び「衝突の火花」が各1件となっている。

また、出火原因別の項目に含まれない「その他」については3件発生している。

〔1(3)出火原因別の火災件数と損害額〕

### (3) 損害額

ア 損害額は、17,099千円となっており、前年に比べ19,348千円の減少となっている。内訳としては、「建物火災」による損害額が19,733千円の減少、「車両火災」は419千円の増加、「その他火災」は34千円の減少となっている。

〔1(1)火災概要〕

イ 火災種別損害額では、「建物火災」が16,628千円で全体の97.2%を占め、「車両火災」が469千円で全体の2.7%となっている。

〔1(5)火災種別損害額〕

### (4) 覚知方法別件数

覚知方法別件数は30件中、「火災報知専用電話（携帯電話）」（119番）が12件で40.0%、次いで「事後聞知」（消防が鎮火後に覚知したもの。爆発の場合は、消防機関が実際に出火又は再爆発の危険がなくなったと推定又は認定した時分が、覚知時分以前のもの）が11件で36.7%、「加入電話（固定電話）」が3件で10.0%、「火災報知専用電話（固定電話）」（NTT加入電話を除く）が2件で6.7%、「火災報知専用電話（固定電話）」（NTT加入電話）及び「その他」が各1件で3.3%となっている。

〔1(6)覚知方法別件数〕

## 2 その他災害統計

### (1) その他災害発生件数及び種別件数

その他災害の発生件数は52件で、前年の41件に比べ11件の増加となっている。また、災害種別の発生件数は、「自然」が22件、次いで「交通」が21件、「危険物」が4件、「ガス・酸欠」が3件、「その他」が2件となっている。

〔2(1)その他災害種別の件数〕

### (2) 市町別件数

市町別の発生件数は、「向日市」が21件、「長岡京市」が24件、「大山崎町」が7件となっている。

〔2(2)市町別その他災害種別の件数〕

### (3) 覚知方法別件数

覚知方法別の発生件数は、「その他」が14件で26.9%、次いで「加入電話（固定電話）」が11件で21.2%、「火災報知専用電話（携帯電話）」が10件で19.2%、「加入電話（携帯電話）」が5件で9.6%、「火災報知専用電話（固定電話）」、「火災報知専用電話（IP電話）」及び「駆け付け通報」が各4件で7.7%、となっている。

〔2(3)覚知方法別件数〕

### (4) 時間帯別件数

時間帯別の発生件数は、「14時～16時」が17件と最も多く、次いで「不明」が6件、「10時～12時」が5件、「6時～8時」、「12時～14時」及び「20時～22時」が各4件、「16時～18時」、「22時～24時」が各3件、「8時～10時」、「18時～20時」が各2件、「0時～2時」、「4時～6時」が各1件となっている。

〔2(4)時間帯別件数〕

### (5) 曜日別件数

曜日別の発生件数は、「火曜日」が25件と最も多く、「水曜日」が7件、「月曜日」、「木曜日」及び「金曜日」が各5件、「土曜日」が4件、「日曜日」が1件となっている。

〔2(5)曜日別件数〕

## 3 救助統計

### (1) 出場件数及び活動件数

救助活動の状況は、出場件数が52件、活動件数は41件で前年に比べると出場件数は1件の増加、活動件数は6件の増加となっている。

〔3(1)事故種別出場件数及び活動件数〕

### (2) 市町別件数

出場件数を市町別で見ると、「向日市」が15件、「長岡京市」が23件、「大山崎町」が10件、「その他の市町」には4件出場している。

〔3(2)市町別出場件数〕

### (3) 救出人員

救出人員は43人で、前年に比べると4人増加している。また、事故種別の内訳は、「建物等による事故」が11名、次いで「交通事故」が9名、「ガス及び酸欠事故」が4名、「水難事故」「機械による事故」が各1名となっている。

また、事故種別の項目に含まれない「その他」については17名となっている。

〔3(3)事故種別救出人員〕

#### 4 救急統計

##### (1) 出場件数及び搬送人員

出場件数は6,733件で前年に比べ103件の増加、搬送人員については6,354人で前年に比べ98人の増加であり、1日あたりの出場件数は18.4件、搬送人員は17.4人となっている。

〔4(1)事故種別出場件数及び搬送人員〕

##### (2) 事故種別

事故種別出場件数は、「急病」が4,239件で全体の63.0%、次いで「一般負傷」の1,128件で16.8%、「交通事故」627件で9.3%となっており、これらが全体の約9割を占めている。

〔4(1)事故種別出場件数及び搬送人員〕

##### (3) 年齢区分

ア 年齢区分別事故種別の搬送人員は、「急病」では搬送人員4,030人中2,564人が「高齢者」で63.6%、次いで「成人」の1,113人で27.6%、「乳幼児」が236人で5.9%となり、全体の半数以上を「高齢者」が占めている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

イ 「交通事故」では、搬送人員619人中374人が「成人」で60.4%、次いで「高齢者」の160人で25.8%、「少年」の65人で10.5%となっている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

ウ 「一般負傷」では、搬送人員1,082人中803人が「高齢者」で74.2%、次いで「成人」の147人で13.6%、「乳幼児」の108人で10.0%となっている。

〔4(2)年齢区分別事故種別搬送人員〕

##### (4) 傷病程度

傷病程度別搬送人員では、搬送人員6,354人中3,512人が「軽症」で55.3%になり半数以上を占めている。

〔4(3)事故種別傷病程度別搬送人員〕

##### (5) 市町別出場件数

市町別出場件数では、「向日市」が2,602件で38.6%、「長岡京市」

が3,476件で51.6%、「大山崎町」が611件で9.1%、「乙訓管外」が44件で0.7%となっている。

〔4(6)市町別出場件数〕

(6) 消防署別出場件数

消防署別出場件数では、「向日消防署」が2,322件で34.5%、「長岡京消防署」が2,164件で32.1%、「長岡京消防署東分署」が1,078件で16.0%、「大山崎消防署」が1,169件で17.4%となっている。

〔4(7)消防署別出場件数〕

※ 本文中のパーセント(%)表示の数値については、小数点第2位を四捨五入しているため、実際の数値とは合致しない場合があります。

# 1 火災統計

## (1) 火災概要

区	分	単 位	平成30年	平成29年	増減(△印減)
出火件数	建 物		18	16	2
	林 野		0	0	0
	車 両		6 (1)	2 (1)	4 (0)
	そ の 他		6 (0)	4 (1)	2 (△ 1)
	計	件	30 (1)	22 (2)	8 (△ 1)
焼損棟数	全 焼		2	5	△ 3
	半 焼		0	1	△ 1
	部 分 焼		5	5	0
	ぼ や		17	11	6
	計	棟	24	22	2
焼 損 床 面 積		m <sup>2</sup>	98	401	△ 303
焼 損 表 面 積		m <sup>2</sup>	21	50	△ 29
林 野 焼 損 面 積		a	0	0	0
死 者		人	1	0	1
負 傷 者		人	5	4	1
り災世帯数	全 損		1	1	0
	半 損		0	0	0
	小 損		21	9	12
	計	世帯	22	10	12
り 災 人 員		人	43	21	22
損害額	建 物		16,628	36,361	△ 19,733
	林 野		0	0	0
	車 両		469	50	419
	そ の 他		2	36	△ 34
	計	千円	17,099	36,447	△ 19,348
出 火 率		件/人口1万人	2.0	1.5	0.5

※ 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

※ 出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。

※ ( )内は高速道路の火災を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(2) 市町別概要

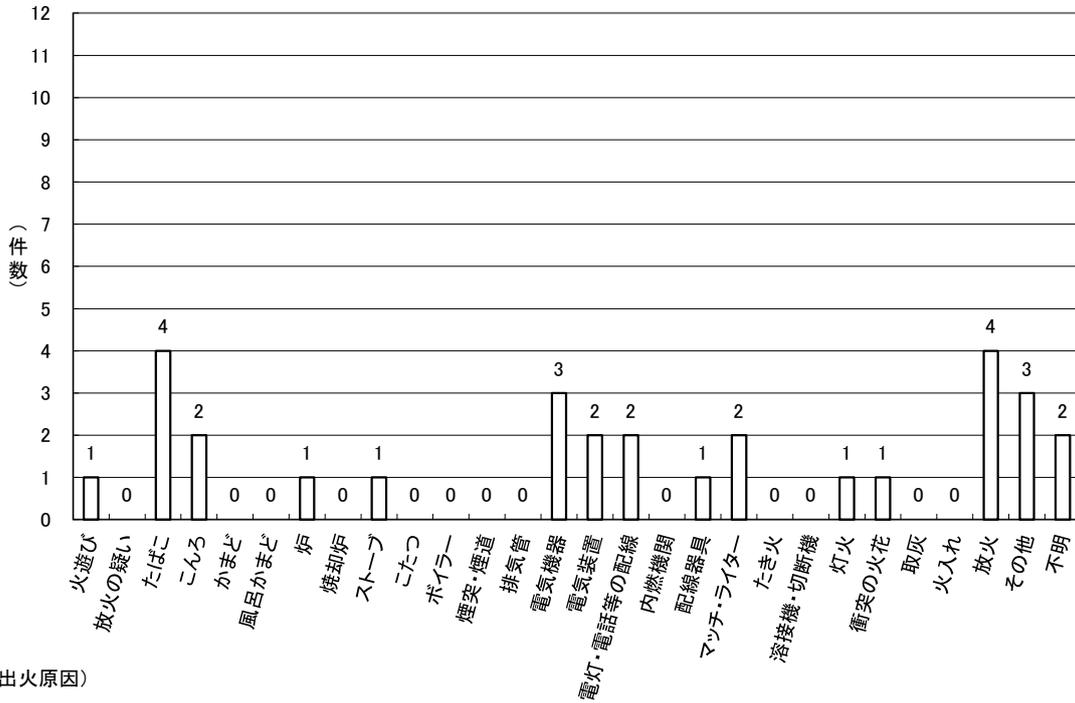
区 分		単 位	向日市	長岡京市	大山崎町
出火件数	建物		7	8	3
	林野		0	0	0
	車両		2	3	1
	その他		3	3	0
	計	件	12	14	4
焼損棟数	全焼		0	1	1
	半焼		0	0	0
	部分焼		0	1	4
	ぼや		7	8	2
	計	棟	7	10	7
焼損床面積		m <sup>2</sup>	0	50	48
焼損表面積		m <sup>2</sup>	1	9	11
林野焼損面積		a	0	0	0
死者		人	0	1	0
負傷者		人	2	1	2
り災世帯数	全損		0	0	1
	半損		0	0	0
	小損		7	3	11
	計	世帯	7	3	12
り災人員		人	14	7	22
損害額	建物		58	7,562	9,008
	林野		0	0	0
	車両		42	412	15
	その他		2	0	0
	計	千円	102	7,974	9,023
出火率		件/人口1万人	2.2	1.7	2.6

※ 「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

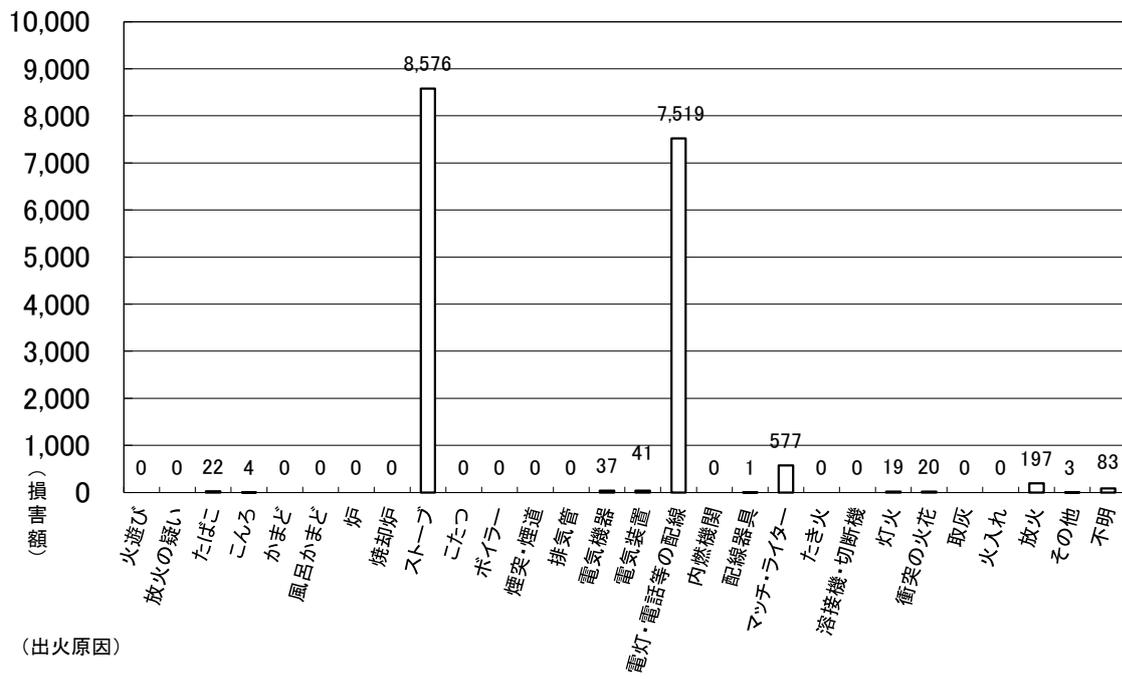
※ 出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。

### (3) 出火原因別の火災件数と損害額

#### 火災件数(件)



#### 損害額(千円)



#### (4) 月別状況

月別	区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
1	月	2	6.7	23	0.1
2	月	4	13.3	16	0.1
3	月	0	0.0	0	0.0
4	月	2	6.7	8,576	50.2
5	月	0	0.0	0	0.0
6	月	4	13.3	119	0.7
7	月	4	13.3	7,698	45.0
8	月	7	23.3	640	3.7
9	月	1	3.3	2	0.0
10	月	1	3.3	2	0.0
11	月	2	6.7	1	0.0
12	月	3	10.0	22	0.1
合 計		30	100.0	17,099	100.0

※ 割合については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

#### (5) 火災種別損害額

火災種別	区分	出火件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	割合 (%)
建 物 火 災		18	60.0	16,628	97.2
林 野 火 災		0	0.0	0	0.0
車 両 火 災		6	20.0	469	2.7
そ の 他 の 火 災		6	20.0	2	0.0
合 計		30	100.0	17,099	100.0

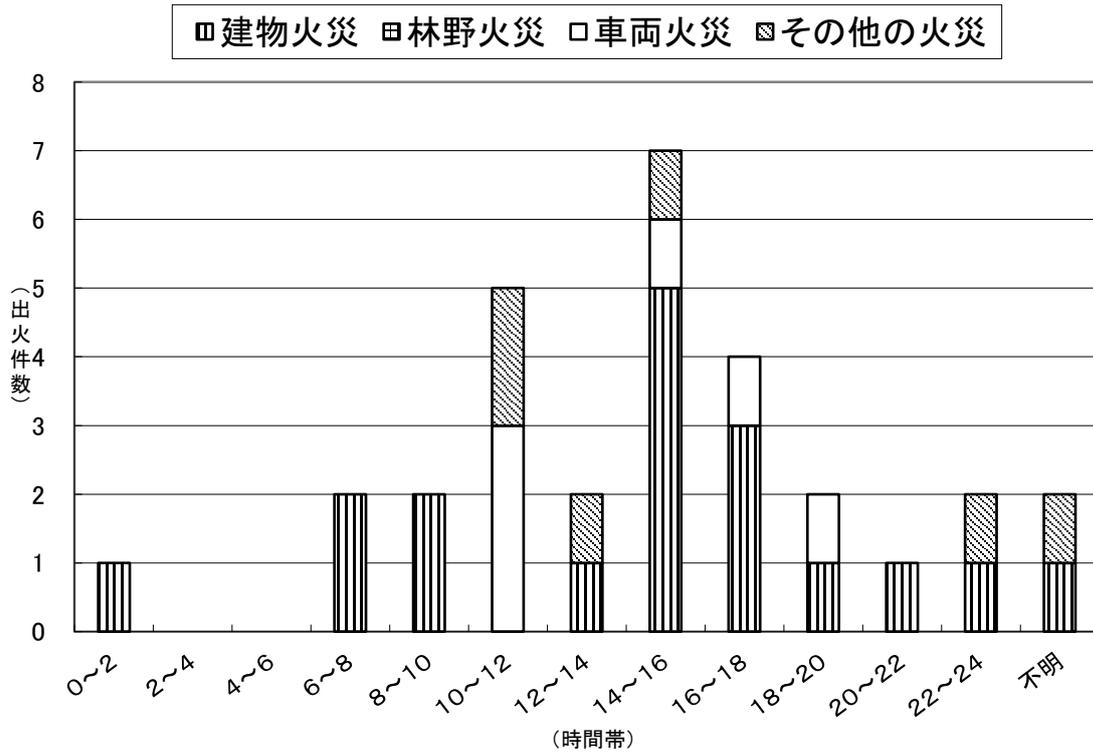
※ 割合については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

#### (6) 覚知方法別件数

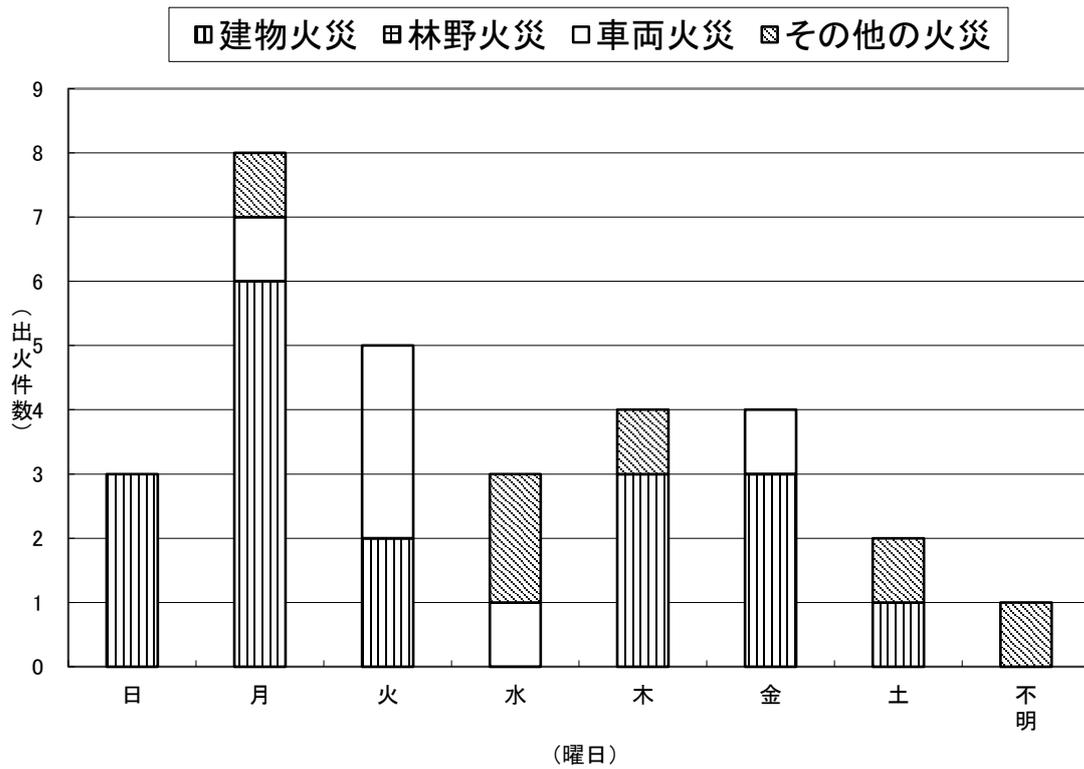
覚知方法	区分	出火件数 (件)	構成比 (%)
火災報知専用電話 固定電話から(NTT加入電話を除く)		2	6.7
火災報知専用電話 固定電話から(NTT加入電話)		1	3.3
火災報知専用電話 携帯電話から		12	40.0
加入電話(固定電話から)		3	10.0
加入電話(携帯電話から)		0	0.0
警 察 電 話		0	0.0
駆 け 付 け 通 報		0	0.0
事 後 聞 知		11	36.7
そ の 他		1	3.3
合 計		30	100.0

※ 構成比については、小数点第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

(7) 時間帯別件数



(8) 曜日別件数



## 2 その他災害統計

### (1) その他災害種別の件数

種別 \ 年別	平成30年	平成29年	増減(△印減)
交通	21	30	△9
水難	0	0	0
自然	22	4	18
機械	0	0	0
危険物	4	4	0
建物等	0	0	0
ガス・酸欠	3	2	1
爆発	0	0	0
その他	2	1	1
計	52	41	11

### (2) 市町別その他災害種別の件数

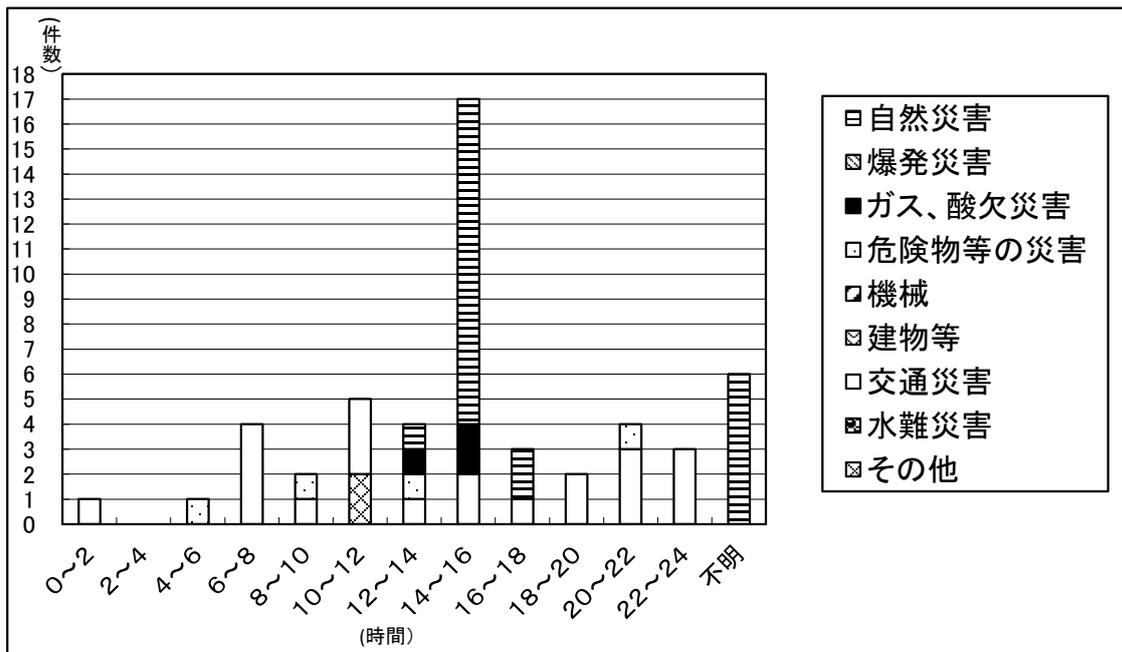
種別 \ 市町別	向日市	長岡京市	大山崎町
交通	8	11	2
水難	0	0	0
自然	11	9	2
機械	0	0	0
危険物	0	2	2
建物等	0	0	0
ガス・酸欠	1	1	1
爆発	0	0	0
その他	1	1	0
計	21	24	7

(3) 覚知方法別件数

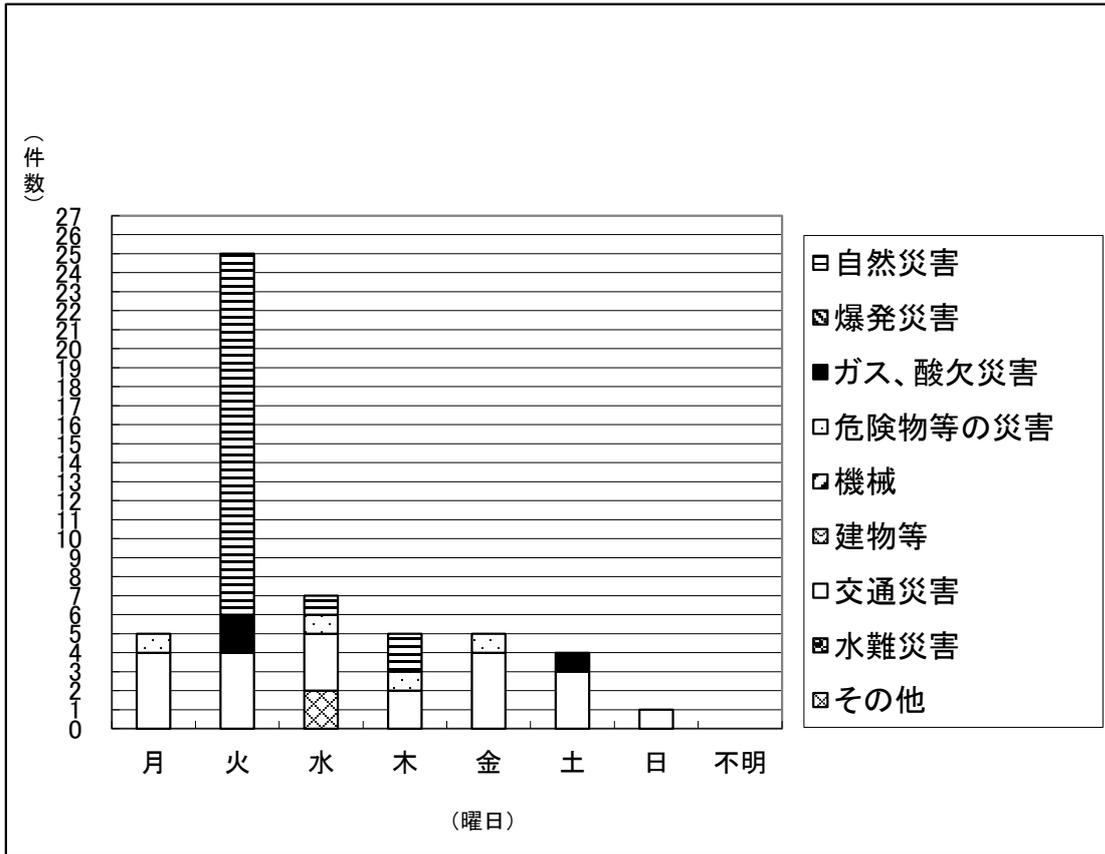
覚知方法	区分	災害件数 (件)	構成比 (%)
火災報知専用電話(固定電話から)		4	7.7
火災報知専用電話(携帯電話から)		10	19.2
火災報知専用電話(IP電話から)		4	7.7
加入電話(固定電話から)		11	21.2
加入電話(携帯電話から)		5	9.6
警 察 電 話		0	0.0
駆 け 付 け 通 報		4	7.7
事 後 聞 知		0	0.0
西日本高速道路		0	0.0
そ の 他		14	26.9
合 計		52	100.0

※ 構成比については小数第2位を四捨五入しているため合計と合致しない場合があります。

(4) 時間帯別件数



(5) 曜日別件数



### 3 救助統計

#### (1) 事故種別出場件数及び活動件数

事故種別		平成30年		平成29年		増減(△印減)	
		出場件数	活動件数	出場件数	活動件数	出場件数	活動件数
火 災	建 物	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
	建物以外	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
交 通 事 故		15 (3)	8 (1)	15 (7)	4 (1)	0 (△ 4)	4 (0)
水 難 事 故		3 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)
風 水 害 等 自 然 災 害		2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)
機 械 に よ る 事 故		1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
建 物 等 に よ る 事 故		11 (0)	11 (0)	21 (0)	21 (0)	△ 10 (0)	△ 10 (0)
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故		1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
爆 発 事 故		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
そ の 他 の 事 故		17 (1)	15 (0)	13 (0)	9 (0)	4 (1)	6 (0)
計		52 (6)	41 (2)	51 (7)	35 (1)	1 (△ 1)	6 (1)

※ ( )内は、高速道路救助出場件数を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(2) 市町別出場件数

事故種別		市町別				計
		向日市	長岡京市	大山崎町	その他の市町	
火 災	建 物	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	建物以外	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
交 通 事 故		5 (0)	4 (0)	4 (1)	2 (2)	15 (3)
水 難 事 故		0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
風 水 害 等 自 然 災 害		0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	2 (2)
機 械 に よ る 事 故		0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
建 物 等 に よ る 事 故		4 (0)	5 (0)	2 (0)	0 (0)	11 (0)
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故		1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
爆 発 事 故		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
そ の 他 の 事 故		5 (0)	10 (0)	2 (1)	0 (0)	17 (1)
計		15 (0)	23 (0)	10 (3)	4 (3)	52 (6)

※ ( )は、高速道路救助出場件数を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

### (3) 事故種別救出人員

事故種別		年別 救 出 人 員		
		平成30年	平成29年	増 減 ( △ 印 減 )
火 災	建 物	0 (0)	1 (0)	△ 1 (0)
	建 物 以 外	0 (0)	0 (0)	0 (0)
交 通 事 故		9 (1)	8 (5)	1 (△ 4)
水 難 事 故		1 (0)	0 (0)	1 (0)
風 水 害 等 自 然 災 害		0 (0)	0 (0)	0 (0)
機 械 に よ る 事 故		1 (0)	0 (0)	1 (0)
建 物 等 に よ る 事 故		11 (0)	20 (0)	△ 9 (0)
ガ ス 及 び 酸 欠 事 故		4 (0)	0 (0)	4 (0)
爆 発 事 故		0 (0)	0 (0)	0 (0)
そ の 他 の 事 故		17 (0)	10 (0)	7 (0)
計		43 (1)	39 (5)	4 (△ 4)

※ ( )は、高速道路救助出場における救出人員を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

(4) 発生場所別出場件数及び活動件数

発生場所		件数区分	平成30年		平成29年		増減(△印減)	
			出場件数	活動件数	出場件数	活動件数	出場件数	活動件数
屋内	住居		13	13	23	23	△ 10	△ 10
	その他の屋内		1	1	1	0	0	1
屋外	道路	高速道路国道	6	2	7	1	△ 1	1
		その他の道路	14	9	10	5	4	4
	水面	内水面	4	3	1	1	3	2
		外水面	0	0	0	0	0	0
	山岳		5	4	5	3	0	1
	その他の屋外		6	6	3	1	3	5
地下		0	0	0	0	0	0	
その他		3	3	1	1	2	2	
計			52	41	51	35	1	6

※ 内水面－河川・湖沼・池・プール等内陸における水上又は水中(ただし、河川敷やプールのシャワー室等は含まない。)

※ 外水面－上記以外の水上又は水中

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

## 4 救急統計

### (1) 事故種別出場件数及び搬送人員

年別等	平成30年		平成29年		増減(△印減)	
件数等 事故種別	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員	出場件数	搬送人員
火 災	9 (1)	3 (0)	9 (3)	4 (1)	0 (△ 2)	△ 1 (△ 1)
自 然 災 害	6 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	4 (0)
水 難	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
交 通 事 故	627 (12)	619 (12)	656 (17)	662 (18)	△ 29 (△ 5)	△ 43 (△ 6)
労 働 災 害	64 (0)	69 (0)	45 (0)	44 (0)	19 (0)	25 (0)
運 動 競 技	103 (0)	108 (0)	84 (0)	89 (0)	19 (0)	19 (0)
一 般 負 傷	1,128 (0)	1,082 (0)	1,162 (1)	1,109 (1)	△ 34 (△ 1)	△ 27 (△ 1)
加 害	29 (0)	28 (0)	36 (0)	30 (0)	△ 7 (0)	△ 2 (0)
自 損 行 為	52 (0)	38 (0)	54 (0)	41 (0)	△ 2 (0)	△ 3 (0)
急 病	4,239 (6)	4,030 (6)	4,075 (0)	3,862 (0)	164 (6)	168 (6)
そ の 他	475 (3)	372 (0)	509 (1)	415 (0)	△ 34 (2)	△ 43 (0)
計	6,733 (22)	6,354 (18)	6,630 (22)	6,256 (20)	103 (0)	98 (△ 2)
一日平均件数	18.4	17.4	18.2	17.1	0.2	0.3

※ ( )内は、「うち高速道路救急出場件数及び搬送人員」を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

## (2) 年齢区別事故種別搬送人員

事故種別 年齢区分	事故種別					計
	急病	交通事故	一般負傷	その他		
新生児	5	0	0	2		7
乳幼児	236	20	108	4		368
少年	112	65	24	72		273
成人	1,113	374	147	253		1,887
高齢者	2,564	160	803	292		3,819
計	4,030	619	1,082	623		6,354

※ 新生児：生後28日未満  
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満  
 少年：満7歳以上満18歳未満  
 成人：満18歳以上満65歳未満  
 高齢者：満65歳以上

## (3) 事故種別傷病程度別搬送人員

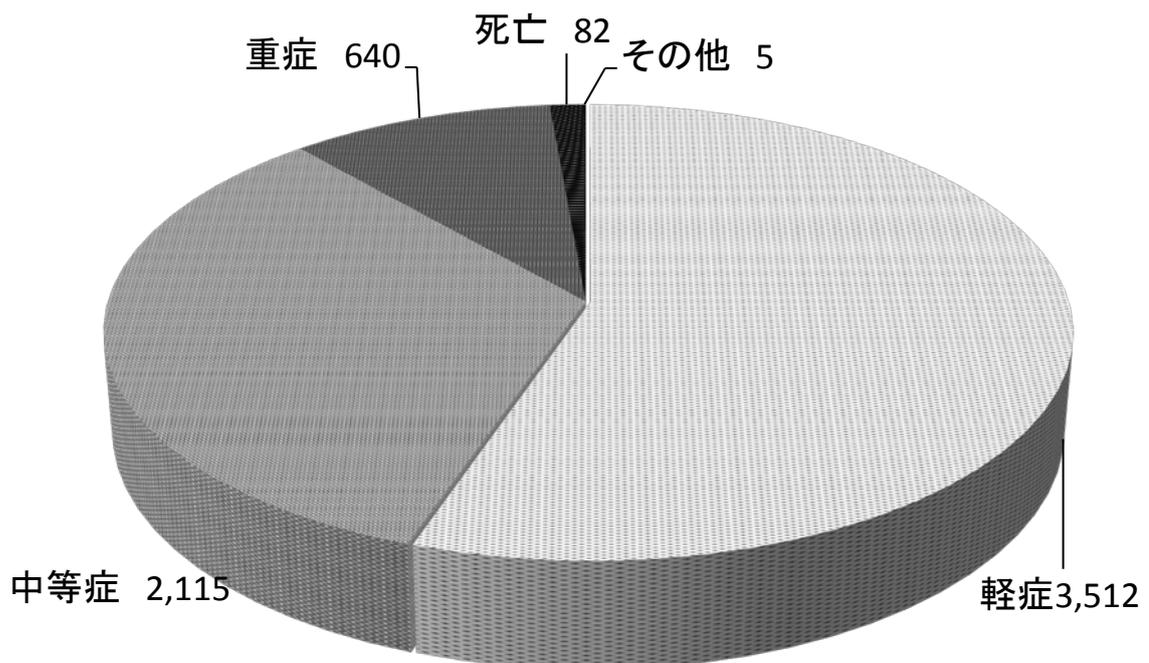
事故種別	傷病程度					計
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	
急病	73	373	1,531	2,050	3	4,030
交通事故	3	24	67	523	2	619
一般負傷	0	142	229	711	0	1,082
その他	6	101	288	228	0	623
計	82	640	2,115	3,512	5	6,354

※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの  
 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので、重症に至らないもの  
 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの  
 その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所（接骨院等）」へ搬送したもの

(4) 年齢区分別傷病程度別搬送人員

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
死亡	0	0	0	8	74	82
重症	2	6	4	98	530	640
中等症	2	62	45	454	1,552	2,115
軽症	3	299	224	1,323	1,663	3,512
その他	0	1	0	4	0	5
計	7	368	273	1,887	3,819	6,354

(5) 傷病程度別搬送人員



(6) 市町別出場件数

地域名		事故種別					計
		急病	交通事故	一般負傷	その他		
向日市	30年	1,671 (0)	276 (1)	425 (0)	230 (0)	2,602 (1)	
	29年	1,613 (0)	260 (1)	447 (0)	217 (0)	2,537 (1)	
増減 (△印減)		58 (0)	16 (0)	△22 (0)	13 (0)	65 (0)	
長岡京市	30年	2,171 (0)	257 (0)	603 (0)	445 (1)	3,476 (1)	
	29年	2,084 (0)	293 (1)	610 (0)	476 (0)	3,463 (1)	
増減 (△印減)		87 (0)	△36 (△1)	△7 (0)	△31 (1)	13 (0)	
大山崎町	30年	390 (4)	72 (5)	95 (0)	54 (3)	611 (12)	
	29年	368 (0)	74 (4)	100 (0)	41 (1)	583 (5)	
増減 (△印減)		22 (4)	△2 (1)	△5 (0)	13 (2)	28 (7)	
京都市	30年	5 (0)	16 (0)	5 (0)	10 (0)	36 (0)	
	29年	8 (0)	18 (0)	4 (0)	0 (0)	30 (0)	
増減 (△印減)		△3 (0)	△2 (0)	1 (0)	10 (0)	6 (0)	
島本町	30年	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	
	29年	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	
増減 (△印減)		1 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	
その他	30年	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	
	29年	1 (0)	11 (11)	1 (1)	3 (3)	16 (15)	
増減 (△印減)		△1 (0)	△6 (△6)	△1 (△1)	△3 (△3)	△11 (△10)	
合計	30年	4,239 (6)	627 (12)	1,128 (0)	739 (4)	6,733 (22)	
	29年	4,075 (0)	656 (17)	1,162 (1)	737 (4)	6,630 (22)	
増減 (△印減)		164 (6)	△29 (△5)	△34 (△1)	2 (0)	103 (0)	

※ ( )内は、「うち高速道路救急出場件数」を表す。

※ 高速道路は、名神高速道路上下線及び大山崎枝線上とする。

## (7) 消防署別出場件数

消防署名		事故種別					計
		急病	交通事故	一般負傷	その他		
向日消防署	30年	1,487	217	389	229	2,322	
	29年	1,433	213	393	262	2,301	
増減(△印減)		54	4	△ 4	△ 33	21	
長岡京消防署	30年	1,345	168	368	283	2,164	
	29年	1,329	193	386	269	2,177	
増減(△印減)		16	△ 25	△ 18	14	△ 13	
東分署	30年	676	141	171	90	1,078	
	29年	665	128	189	77	1,059	
増減(△印減)		11	13	△ 18	13	19	
大山崎消防署	30年	731	101	200	137	1,169	
	29年	648	122	194	129	1,093	
増減(△印減)		83	△ 21	6	8	76	
合計	30年	4,239	627	1,128	739	6,733	
	29年	4,075	656	1,162	737	6,630	
増減(△印減)		164	△ 29	△ 34	2	103	

(8) 救急隊員が行った応急処置状況

処置事項	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
	応急処置対象人員	4,028	618	1,077	621	6,344
止血	血	11	21	89	14	135
固定	定	7	139	60	41	247
人工呼吸	吸	9	0	1	6	16
心マッサージ	ジ	0	0	0	0	0
心肺蘇生	生	116	4	2	13	135
酸素吸入	入	679	31	37	119	866
気道確保	保	162	5	10	18	195
	経鼻エアウェイ	6	0	0	1	7
	喉頭鏡、鉗子等	3	0	3	1	7
	ラリンゲアルマスク	21	2	0	1	24
	気管挿管	8	0	2	2	12
保温	温	124	6	27	16	173
被覆	覆	34	175	312	60	581
在宅医療	療	60	0	4	1	65
ショックパンツによる血圧の保持		0	0	0	0	0
除細動	動	10	0	0	2	12
静脈路確保	保	67	4	2	9	82
薬剤投与	与	27	0	1	4	32
その他の応急処置		3,854	559	1,011	569	5,993
血圧測定	定	3,829	607	1,037	599	6,072
聴診器による聴取		2,655	328	597	320	3,900
血中酸素飽和度測定		2,655	328	597	320	3,900
心電図測定		2,655	328	597	320	3,900
計		16,954	2,535	4,384	2,431	26,304

注：1 一人につき複数の応急処置を行う事もあるため、応急処置対象人員と事故種別ごとの処置項目の係数とは一致しない。

注：2 拡大された応急処置のうちショックパンツと自動式心マッサージ器は積載していない。